

【ジェネリック医薬品】
薬剤師におけるジェネリックへの意識
2008年10月 薬剤師調査

2008年12月12日

沢井製薬株式会社

ジェネリック医薬品に関する意識や調剤状況を定点観測として時系列で比較する。
2008年4月の制度改正による変化を探るため、調剤局面での現状のジェネリック医薬品採用状況および採用方針を探ると同時に、今後の展望などを把握する。

薬剤師調査

調査対象： 全国の薬剤師

サンプル構成：

	20代	30代	40代以上	合計
病院・診療所勤務	30	43	27	100
保険薬局勤務	49	92	59	200
合計	79	135	86	300

計300サンプル

調査項目：
 ・「ジェネリック医薬品」の特徴認知
 ・「ジェネリック医薬品」の採用状況
 ・変更不可の処方せん割合
 ・変更不可の場合の対応
 ・2008年4月の制度改正事項の内容認知

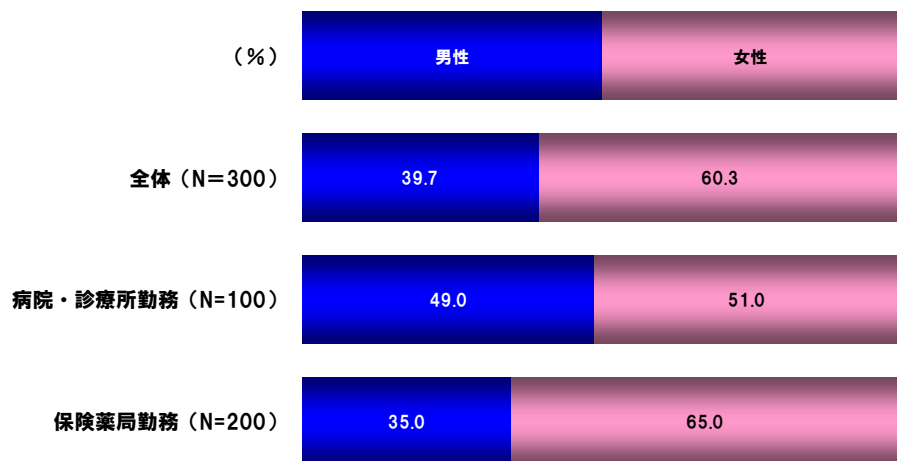
など

調査手法： インターネット調査

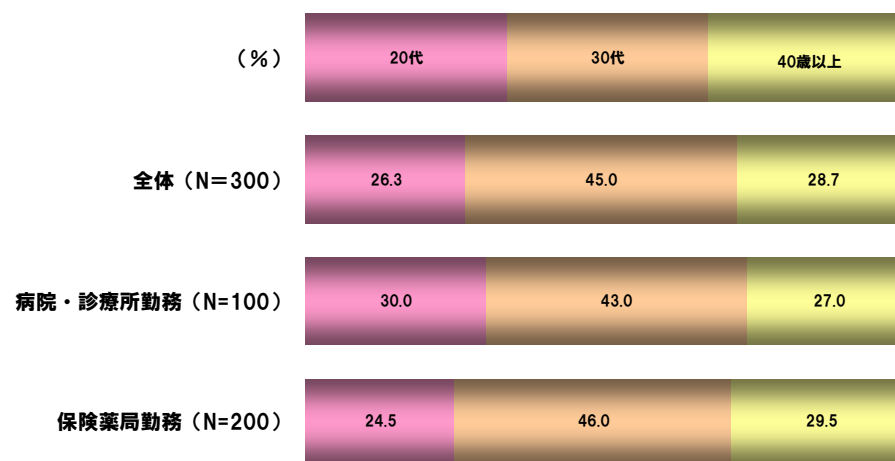
調査期間： 2008年10月16日(木)～17日(金)

回答者は30代が45%、40歳以上が29%を占めている。
勤務先別では、保険薬局勤務者が200名、病院・診療所勤務者が100名である。

《性別》



《年代》



- Q1. 「ジェネリック医薬品」についてご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)
- Q2. 患者さんは「ジェネリック医薬品」のことを知っていると思いますか。(SA)
- Q3. あなたのお勤め先では「ジェネリック医薬品」を採用していますか。(SA)
- Q4. あなたのお勤め先では「ジェネリック医薬品」の積極的活用を進められていますか。(SA)
- Q5. あなたのお勤め先では「ジェネリック医薬品」を採用する際に、何を重視しますか。(MA)
- Q6. あなたのお勤め先で採用している「ジェネリック医薬品」についての満足度をお答え下さい。(SA)
- Q7. あなたのお勤め先で備蓄している「ジェネリック医薬品」はおよそ何品目ですか。(FA)
- Q8. あなたのお勤め先では今後、何品目くらいの「ジェネリック医薬品」を備蓄するべきだとおもいますか。(FA)
- Q9. ここ最近一ヶ月以内に応需した処方せんのうち、「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんはだいたいどのくらいでしたか。(SA)
- Q10. 「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんのうち、実際に「ジェネリック医薬品」に変更になった割合はだいたいどれくらいでしたか。(SA)

- Q11. 「ジェネリック医薬品」への変更が「不可」となっていない(医師のサインのない)処方せんの場合、あなたやあなたのお勤め先ではどのような対応をとっておられますか。(MA)
- Q12. 2008年4月以降、患者さんから「ジェネリック医薬品を調剤(処方)して欲しい」と頼まれたことはありますか。(SA)
- Q13. あなたは2008年4月に変更になった以下の事柄についてご存知でしたか。(SA)
- Q14. 2008年4月1日に変更になった以下の事柄について、患者さんは知っていると思いますか。2008年4月以降に限ってお答えください。(SA)
- Q15. 「ジェネリック医薬品」が処方可能な場合、あなたは患者さんに対し、「ジェネリック医薬品」についての説明を行っていますか。ここ最近一ヶ月以内についてお答えください。(MA)
- Q16. 「ジェネリック医薬品」が処方可能な場合、あなたやあなたのお勤め先では患者さんに対し、「ジェネリック医薬品」を短期間試することができる分割調剤を行っていますか。ここ最近一ヶ月以内についてお答えください。(SA)
- Q17. 今後、「ジェネリック医薬品」が普及していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(MA)
- Q18. あなたが「ジェネリック医薬品メーカー」に期待することはどのようなことですか。(FA)

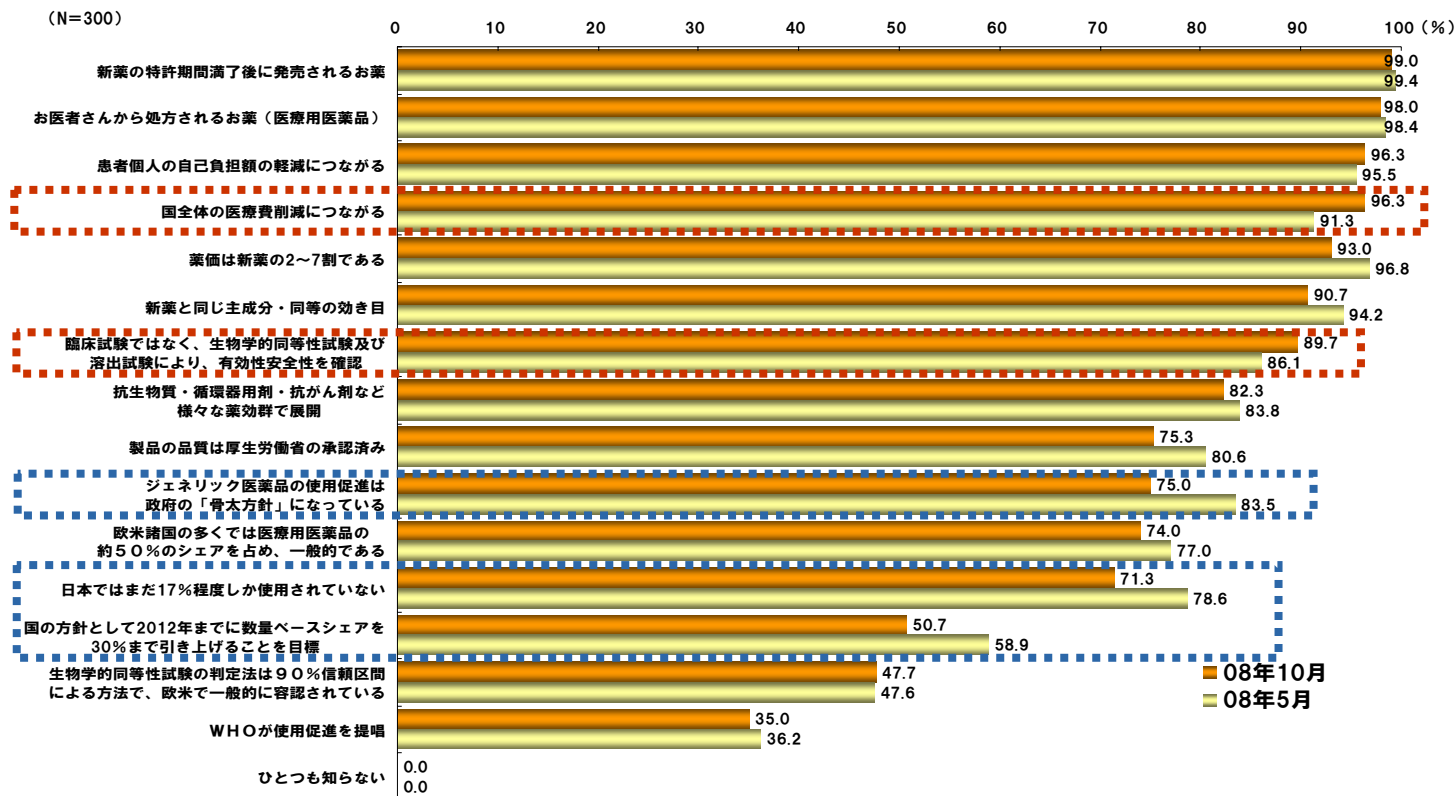
※SA: 単一回答

※MA: 複数回答

※FA: 自由回答

Q1 「ジェネリック医薬品」についてご存知の事柄をすべてお選び下さい。(MA)

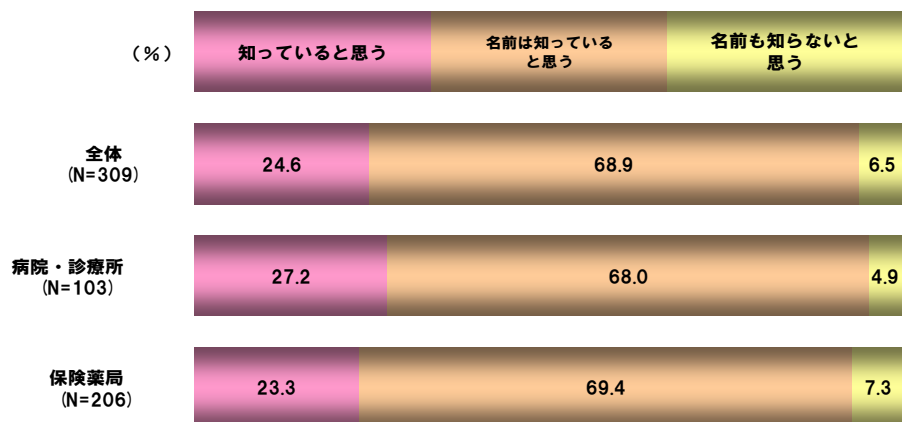
主要項目で引き続き高い水準を保ち、内容の認知度は高い。
 08年5月調査と比べ、「医療費削減につながる」、「有効性を確認」が伸びている一方で、
 「骨太の方針になっている」、「17%程度しか使用されていない」、「30%まで引き上げる」が減少している。



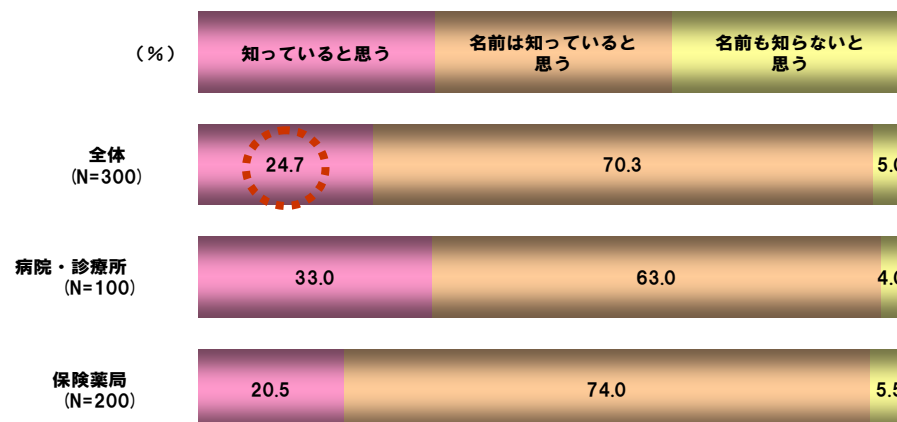
Q2 患者さんは「ジェネリック医薬品」のことを知っていると思いますか。(SA)

「知っていると思う」のスコアは全体で前回並みの25%となっている。
これに対し、「知っている」と答えた患者さんの割合は77%であり、薬剤師の認識との間に差が見られる。

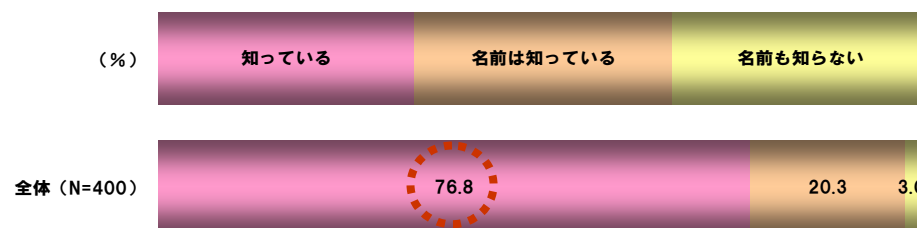
《08年5月》



《08年10月》



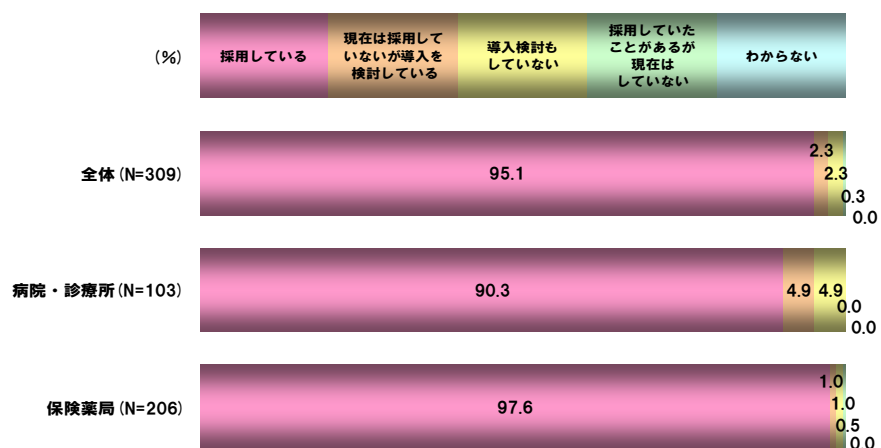
《参考》患者の認知状況(08年10月調査)



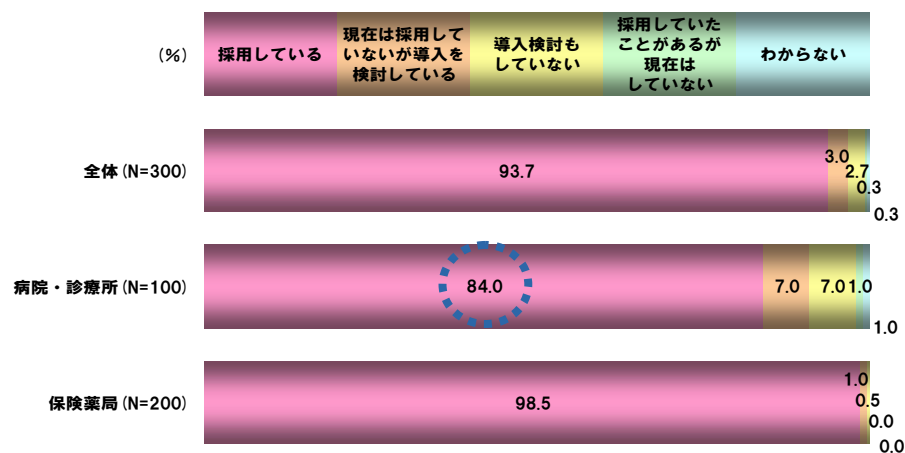
Q3 あなたのお勤め先では「ジェネリック医薬品」を採用していますか。(SA)

08年5月調査と比べ、ジェネリック医薬品の採用率は病院・診療所で下がる結果となったが、勤務先に関わらず、採用率は高いスコアを維持している。

《08年5月》



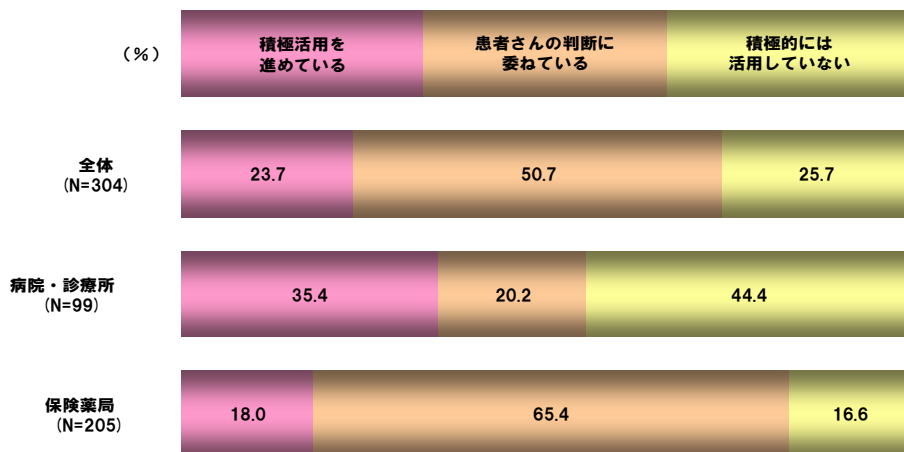
《08年10月》



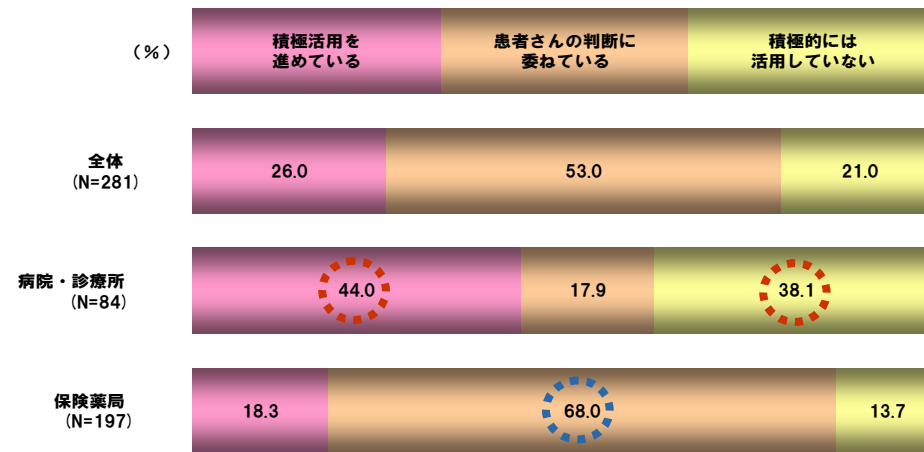
Q4 あなたのお勤め先では「ジェネリック医薬品」の積極的活用を進められていますか。(SA)

ジェネリック医薬品を採用している病院・診療所、薬局において、「活用を進めている」と答えたのは、病院・診療所で高く44%。しかし、「活用していない」も依然38%となっている。保険薬局では68%が患者さんに判断を委ねている。

《08年5月》【採用病院・診療所、薬局ベース換算】



《08年10月》【採用病院・診療所、薬局ベース換算】



Q5 あなたのお勤め先では「ジェネリック医薬品」を採用する際に、何を重視しますか。(MA)

重視する点として、「供給体制」が93%で最も高くなっており、次いで品質、効果・効能が続いている。
ラインナップ、ブランド力については、前回よりやや減少し、50~55%に留まった。

